

- 問1 平安時代初期の仏教は、奈良時代の仏教が政治に深く関わったことへの反省から、人里離れた山奥に寺院を建立して厳しい修行を行うという特徴を持っていました。この時期に、現在の和歌山県にある高野山に金剛峯寺を建て、真言宗を広めた人物は誰ですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 最澄 2. 聖徳太子 3. 空海 4. 鑑真
-
- 問2 1053年、時の権力者であった藤原頼通が、仏教の浄土信仰に基づき、極楽浄土をこの世に再現しようとして現在の京都府宇治市に建立した建築物を選びなさい。 (2020年 福島県公立入試 類似)
1. 慈照寺銀閣 2. 姫路城天守 3. 平等院鳳凰堂 4. 法隆寺金堂
-
- 問3 奥州藤原氏が平泉に中尊寺金色堂のような大規模な寺院を建立し、都の文化を取り入れながら独自の文化を発展させることができた経済的な理由として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 愛媛県公立入試 類似)
1. 鎌倉幕府の執権から、東北地方の統治費用として多額の援助金を受けていたから。 2. この地域で産出される豊富な金や、馬などの北方特産物の取引によって莫大な富を得ていたから。 3. 大陸から伝わった最新の農業技術を導入し、米の生産高が全国で最も多かったから。 4. 瀬戸内海の海上交通を支配し、西日本各地の物資を独占的に扱っていたから。
-
- 問4 平安時代の社会情勢をまとめた記録において、地方で荘園の整理や拡大が進み、貴族の邸宅で寝殿造が流行していた時期に成立した作品として正しいものはどれですか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
1. 鴨長明が乱世の無常を記した『方丈記』 2. 清少納言が記した『枕草子』 3. 菅原道真が遣唐使の廃止を提案した際の『建議文』 4. 山上憶良らが詠んだ歌を収めた『万葉集』
-
- 問5 平安時代末期、平氏の棟梁である平清盛は、武士として初めて太政大臣に就任し、朝廷内で強大な権力を振るいました。清盛が権力を維持するためにとった手法として、清盛の娘である徳子を高倉天皇の後（きさき）とし、その間に生まれた安徳天皇を即位させたことが挙げられます。このように、天皇の母方の親戚として政治の実権を握る立場を何といいますか。 (2023年 京都府公立入試 類似)
1. 執権 2. 外戚 3. 関白 4. 摂政
-
- 問6 最澄が比叡山に延暦寺を建立した背景にある、仏教と国家の関係性についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2018年 和歌山県公立入試 類似)
1. 仏教の力で国家を災いから守り、平和を維持しようと考えた。 2. 貴族一人ひとりの私的な繁栄を祈禱することを最大の目的とした。 3. 現世での利益を得るために、呪術的な儀式を最優先した。 4. 武士の台頭を抑えるために、独自の軍勢力を維持しようとした。
-
- 問7 平清盛が行った政策と、その地理的な関連性について述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2019年 福島県公立入試 類似)
1. 瀬戸内海の航路を整備するとともに、現在の神戸市付近にある大輪田泊を修築して、宋との貿易の拠点とした。 2. 九州北部の博多のみを唯一の貿易港として限定し、外国の商人が瀬戸内海へ進入することを厳しく制限した。 3. 日本海側の航路を重視し、現在の石川県付近にある港を拠点として、大陸との間で北方貿易を盛んに行った。 4. 長崎に人工の島を築き、そこを窓口として宋の商人と限定的な取引を行う制度を整えた。
-
- 問8 10世紀から11世紀頃の日本において、唐との交流が途絶えた後に発達した「国風文化」の特色を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
1. かな文字が考案され、清少納言などの女性らによって随筆や物語が執筆された。 2. 禅宗の影響を強く受け、水墨画や枯山水の庭園といった簡素な美が好まれた。 3. 遣唐使によってもたらされた大陸的な様式が、建築や仏像制作の主流となった。 4. 武士の気風を反映し、軍記物語や力強い彫刻が数多く制作された。
-
- 問9 11世紀半ばの東北地方における豪族の反乱（前九年の役・後三年の役など）と、12世紀半ばに京都で起きた保元の乱・平治の乱を比較したとき、武士の役割の変遷について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2018年 広島県公立入試 類似)
1. 朝廷の儀式を警備する名譽職から、各地の土地を直接支配して年貢を徴収する実務職へと限定された。 2. 大陸からの侵略を防ぐ国防の担い手から、天皇の側近として学問や文化を教える教育的な役割へと変化した。 3. 地方の反乱を鎮圧する役割から、中央政府である朝廷内の政争に関与する役割へと拡大した。 4. 有力な地主の土地を守る私兵から、仏教勢力の拡大を阻止するための宗教警察へと役割が変化した。
-
- 問10 日本の古代において、律令制をはじめとする国家体制が整備された背景と目的について述べた記述として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 山梨県公立入試 類似)
1. 民衆が政治に直接参加できる権利を保障し、話し合いによって国の重要事項を決定する民主的な仕組みを整えた。 2. 地方の有力な武士たちが自らの領地を確実に支配するため、共通のルールとして独自の法律を定めた。 3. 中国（唐）を中心とした東アジア諸国の優れた制度を学び、天皇を頂点とした中央集権的な国家を築こうとした。 4. ヨーロッパ諸国の憲法を参考に、国際社会で対等な貿易を行うための近代的な国家体制の構築を急いだ。
-
- 問11 平安時代に発達した、日本独自の文化の特徴を説明した文として、適切なものはどれか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
1. 雪舟によって大成された水墨画が、この時代の貴族たちの間で最も好まれる芸術作品となった 2. 漢字を簡略化したり変形させたりした仮名文字が工夫され、紀貫之らによる『古今和歌集』などの文学が盛んになった 3. 紫式部によって著された『源氏物語』は、当時の武士の生活や戦いの様子を生き生きと描いた物語として普及した 4. 書院造と呼ばれる建築様式が広まり、貴族の邸宅では畳を敷き詰めた部屋で連歌が楽しまれた
-
- 問12 平安時代の中期、遣唐使の廃止などを背景に、日本の風土や生活に合わせた独自の文化が発達しました。この文化の名称と、その時期に広く使われるようになった文字の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
1. 元禄文化 — 仮名文字 2. 国風文化 — 仮名文字 3. 東山文化 — 漢字 4. 天平文化 — 漢字
-
- 問13 広島県の沿岸部に位置し、満潮時には社殿全体が海に浮かんでいるように見える独創的な構造を持つ厳島神社について、その歴史的背景を説明したものとして適切なものはどれか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
1. 北条時宗が、元軍の襲来を退けた後に、武士の精神的支柱とするため鎌倉時代の建築様式で再建した。 2. 聖徳太子が、大陸から伝わった仏教を広めるための拠点として、飛鳥時代に瀬戸内海の中心地に建立した。 3. 足利義満が、室町幕府の財政を潤した中国との貿易を記念し、当時の最新の建築技術を集約して造営した。 4. 平清盛が、宋との貿易による繁栄を背景に、自身の権勢と信仰を示すため平安時代末期に整備した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 空海	平安時代初期、遣唐使として唐に渡った空海は、帰国後に高野山（和歌山県）を拠点として真言宗を開きました。これまでの都市型の仏教とは異なり、山の中で修行に励むスタイルは、当時の平安文化の大きな特色の一つとなりました。同じ時期に活躍した最澄は、比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広めています。
問2	答え 3 平等院鳳凰堂	平安時代中期、仏教の教えが衰える「末法」の時代が来るとする末法思想が広まり、阿弥陀如来にすがって死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰が貴族の間で盛んになりました。藤原氏の全盛期を築いた藤原道長の子、頼通によって建立されたこの建築物は、当時の華やかな国風文化と信仰の結びつきを象徴しています。
問3	答え 2 この地域で産出される豊富な金や、馬などの北方特産物の交易によって莫大な富を得ていたから。	奥州藤原氏の財力の源泉は、現在の岩手県などで採掘された良質な砂金と、名馬やアザラシの毛皮といった北方の特産品でした。これらを京都の貴族への献上や、宋（中国）などの海外との貿易に用いることで、中央の文化を導入する経済的基盤を築きました。金色堂の装飾にふんだんに金が使われていることも、この背景を裏付けています。
問4	答え 2 清少納言が記した『枕草子』	平安時代中期、土地制度が変化して荘園が増加する一方で、都の貴族たちは国風文化を享受していました。この時期、清少納言はかな文字を用いて、当時の宮廷社会の雰囲気や自然観を『枕草子』という随筆にまとめました。『万葉集』は奈良時代、『方丈記』は鎌倉時代作品です。
問5	答え 2 外戚	平清盛は、かつて藤原氏が摂関政治において用いた手法を参考にしました。自分の娘を天皇の后にし、その子供（自分の孫）を天皇として即位させることで、天皇の祖父にあたる「外戚」という立場を築き、政治的な発言力を強めました。これにより、平氏一門は朝廷の重要な役職を独占することに成功しました。
問6	答え 1 仏教の力で国家を災いから守り、平和を維持しようと考えた。	最澄が比叡山に拠点を構えた背景には、鎮護国家の思想がありました。これは仏教が国家の保護を受ける代わりに、仏教の教えや修行によって国を安定させるという役割を担うものです。平安京の北東という方位に建立されたことも、都を災いから守るという意図が含まれていました。当時の仏教は、個人的な欲望を満たすための「現世利益」や特定の階級の繁栄よりも、まずは国家全体の守護という公的な性格が重視されていました。
問7	答え 1 瀬戸内海の航路を整備するとともに、現在の神戸市付近にある大輪田泊を修築して、宋との貿易の拠点とした。	平清盛は、自身の領地があった西国と都を結ぶ瀬戸内海の交通網を重視しました。音戸の瀬戸（広島県）などの難所を工事し、さらに現在の兵庫県に位置する大輪田泊を改築することで、宋の船を九州からさらに奥の近畿地方まで引き込み、物流の効率化と利益の独占を図りました。博多は平安時代を通じて重要な拠点でしたが、清盛は大輪田泊を重視した点が特徴的です。
問8	答え 1 かな文字が考案され、清少納言などの女性らによって随筆や物語が執筆された。	遣唐使の廃止後、日本の風土や生活に合わせた「国風文化」が花開きました。特に漢字を簡略化した「かな文字」の成立は大きく、これによって清少納言の『枕草子』に代表される随筆や、和歌、物語といった女性による優れた宮廷文学が数多く生み出されました。
問9	答え 3 地方の反乱を鎮圧する役割から、中央政府である朝廷内の政争に関与する役割へと拡大した。	11世紀の東北地方での紛争は、地方支配をめぐる豪族の反乱を武士が鎮圧するという構図でしたが、12世紀の京都での乱は、朝廷の中枢における権力闘争に武士が加担するものでした。この変遷は、武士が単なる「地方の軍事力」から「国家の政治を左右する勢力」へと成長した過程を示しています。
問10	答え 3 中国（唐）を中心とした東アジア諸国の優れた制度を学び、天皇を頂点とした中央集権的な国家を築こうとした。	古代の日本では、東アジアの先進的な文明や制度を積極的に取り入れることで、国家の基盤を固めました。特に中国の唐の制度に倣った「律令」を制定したことで、天皇が全国の土地と人民を直接支配する公地公民の原則に基づく、中央集権的な国家体制（律令国家）が目指されました。武士が政治の主役となるのは中世以降であり、民衆による民主的な運営という視点もこの時代には当てはまりません。
問11	答え 2 漢字を簡略化したり変形させたりした仮名文字が工夫され、紀貫之らによる『古今和歌集』などの文学が盛んになった	国風文化の時代には、日本語の音を表現するために漢字を崩した「平仮名」や、漢字の一部を取った「片仮名」が作られました。これにより、紀貫之らによる『古今和歌集』や、紫式部による『源氏物語』などの優れた仮名文学が数多く生み出されました。また、こうした物語の場面は、後に『源氏物語絵巻』などの絵巻物としても描かれました。
問12	答え 2 国風文化 ― 仮名文字	894年に遣唐使が停止された後、それまでの中央集権的な唐風の文化から、日本の気候や日本人の感覚に合った「国風文化」が発展しました。この時期に漢字を崩して作られた「仮名文字」が発明されたことで、和歌や物語などの文学を通じて、日本人の繊細な感情が自由に表現できるようになりました。
問13	答え 4 平清盛が、宋との貿易による繁栄を背景に、自身の権勢と信仰を示すため平安時代末期に整備した。	平安時代末期、武士として初めて太政大臣となった平清盛は、安芸国（現在の広島県）の厳島神社を平氏の一族の守り神として篤く信仰しました。清盛は日宋貿易によって得た莫大な富を背景に、それまでの常識を覆す海上に建つ壮麗な社殿を完成させました。この建築には、当時の貴族文化を象徴する寝殿造の様式が取り入れられており、平氏が武士でありながら貴族的な性格を併せ持っていたことを象徴しています。他の選挙地にある聖徳太子や足利義満、北条時宗は、建立の時期や目的が事実と合致しません。